

～教育実習を振り返って～ [県立M高等学校 英語] 氏名：T. K

二週間の教育実習は本当にあつという間であった。毎日観察実習や授業実習、その準備に追われていたため、一日一日が非常に短く感じた。しかし、その短い期間の中で、学校教育について学ぶべきことは多くあり、今回の教育実習は非常に充実したものであったと感じる。

観察実習では、様々な先生方の授業を見させて頂き、先生またはクラスによって様々な授業の進め方があることを知った。自分が高校生だった時は気づかなかつたが、先生が作成するプリントや授業中での活動には必ず意味があり、先生方はそれらを踏まえて授業の組み立て方を考えているということに改めて確認した。また、生徒への発問や活動を行うタイミングに注意していたり、本時の目標を明示的にしておいたりするなど、授業を円滑に進めつつ、生徒の意欲・関心を高める工夫が所々に見られた。最も感銘を受けたことは、やはり先生方の知識の豊富さである。関連事項を次から次へと増やしていく知識量があるのは、日頃から教科の専門性を高めるために努力をしているからであろう。自分もさらに専門的知識を身に付けなければという思いを抱いた。

実際に指導案を書き、授業の構成を考える際には、教科指導や HR 担任の先生から様々な指導をして頂くと同時に自分が考えた授業内での活動は何を目標にしているのかを深く突き詰められ、自分の考えの甘さを痛感した。また、教材研究をすることによって、一つの単元で生徒に学ばせたいことを見つけ、それを目標として達成できるような授業展開を考えていくという、授業を構成する上で最も基本的なことを改めて確認することができた。

授業実習では、実際の授業と指導案で予定していたこととの差異を感じ、どのようにして生徒の授業への参加度・理解度を高めていくことができるかを考えさせられる機会となった。最初は緊張して生徒の表情を見る余裕がなかつたが、数をこなしていくうちに心にも余裕ができ、机間巡視を行うことによって、生徒が理解しているかどうかや集中して聞いているかどうかを、表情を見ながら確認することができるようになったと思う。授業中は内容を進めることで精一杯になっていたが、授業後に振り返ってみると、重要な学習事項は声の抑揚や強弱、話す速さに注意した方が生徒の理解度が増していたのではないかと、もう少し詳しく説明した方が良かったのではないかと、など反省点が多く見つかったのも、実際に授業を通して行ってみたら良かったと感じる。生徒のレベルを考慮し、生徒の目線で授業をしていくことがいかに難しいことかを知ることができた。

教科の授業とは別に、担当の HR では朝の SHR で時間を頂いて高校時代や大学での体験談を生徒にしたり、自己紹介のアンケートを配ったりして、短い間ではあるが、できるだけ生徒との関係を築くことができるよう努力をした。最後の HR では、自分が高校時代にしておけば良かったこと、これから学校生活を送っていく上で大切にしてほしいことや、大学受験に向けて生徒に考えてほしいことを伝えることができ、生徒と関わる時間を最大限楽しむことができたように思う。実習終了後には生徒が色紙を持ってきてくれ、このク

ラスを担当することができて本当に良かったと心から思った。

今回の教育実習で感じたことは、「授業は生き物である」ということ。どれだけ準備を綿密に行っても完璧な授業というのにはあり得ない。それゆえに教えるということはおもしろく、自らの学びにもつながると考える。また、時間をかけて計画した授業を生徒が楽しい、分かりやすいと言ってくれることは教える側にとって最大の喜びであり、生徒との関わり合いの中で教師自身も成長していくのだと感じた。この教育実習を通して、自分の教える立場としての課題点を見出すことができ、改めて教職に就きたいという思いが強まった。実習を受け入れてくださった母校に感謝して、これからも精進していきたい。